



### ○保護者にお願いしたいこと

- 医師に病状等、退院後に気を付けることを確認しておく。

退院後も日常生活を送る上で配慮が必要となることがあります。通院の頻度や服薬について、各授業への参加の仕方、緊急時対応等は確認しておくといいです。本人はもちろんのこと、保護者もその配慮事項を理解しておき、周囲に説明することができるよう確認しておくといいです。

また、病院や学校が退院時に関係者を集め、退院後の家庭や学校での注意すべきことなどを共通理解するために、連携会議等を開いてくれる場合があります。そんな時にはなるべく参加して、心配なこと等を相談するといいです。

- 原籍校の教員と医療者との間で情報のつなぎ役等、懸け橋の役割を果たす。

医師に確認した退院後の配慮事項は、原籍校の教員には理解しておいてもらいたいので、退院の連絡や今後の予定とともに原籍校の教員に伝えておくことが大切です。その際、学校での対応について検討し、必要な準備を進めてもらうことを依頼するといいです。また、入院時等と同様に原籍校の教員からの疑問や確認事項は、個人情報保護のため教員から医療者に確認するのではなく、保護者を通して医療者に確認するとスムーズに伝わるので、是非積極的に関係者の間に入り、連絡調整等をするといいです。

- 兄弟姉妹の様子の変化に気を配る。

退院後、自宅療養となることがあります。これまではお見舞いのときにしか目にしなかった、家族が病気で苦しんでいるという事実を、兄弟姉妹は毎日身近に感じるようになります。病気の兄弟姉妹に気を遣って気が休まらなかったり、家の中に居づらいつ感じたりすることもあるかもしれません。そうした兄弟姉妹の様子には、入院中と変わらず目を配り、その変化を見逃さないように心がけてください。

- **原籍校の仲間へ病気の説明をどうするか、本人や教員、医師等と相談する。**

退院し復学すると、実際に学級の仲間等と顔を合わせて話をする事になります。病状について聞かれることがあるかもしれませんが、逆に気を遣って病気の事には触れられないかもしれません。そうした仲間の反応への不安から、本人は学校に行きたくないと感じるときもあります。具体的に説明するかしないか、するならどう説明するかを事前に本人と相談しておくことが大切です。その際は、本人の意思を尊重しましょう。そうすれば「言ってほしくないことを言われた」「教員から説明してほしかったのにしてくれなかった」と本人が嫌な思いをすることが避けられます。「病気に関わる対応を自分で決められる」という思いは、今後の治療や復学に向かう意欲向上の一助となります。

- **院内学級でした学習道具等の整理や原籍校へ持っていく物の準備を、本人が自分でするように支援する。**

院内学級で学習した物を自分で整理したり、原籍校への登校に必要な物を自分で準備したりすることは、自然と復学への意識を高めることにつながります。また、自分で学習道具の整理をしたり準備したりすることは、入院中の自分の学習状況の把握にも役立ちます。状況に応じた支援は必要ですが、できるだけ本人が主体的に準備できるように支援できるとよいです。

- **不安なことは些細なことでも教員や医療者等に相談する。**

入院中は、本人の状態について気を配るのは主に医師や看護師の役割でした。退院後はその役割が、家族、主に保護者に移ります。「不調のサインを見落としたりどうしよう」「自分が出かけている間に急変したら…」と考えることもあるかもしれません。そんな時は遠慮しないで教員や医療者等に相談してみましょう。病状についてより詳細に説明してもらえることで安心できることもあります。学校も、相談内容によっては、それまでとは違う対応を考えてくれることもあります。いずれにしても、不安に感じたことは一人て抱え込まず、教員や医療者等、自分が話しやすいと感じた周囲の人に相談することが大切です。